

卒琢

(そったく)



豊田南中学校進路だより第33号
令和3年12月15日(水)文責 佐藤 剛



保健体育の授業で長距離走を行っています。その長距離走では、みんなが同じゴールに向かって走っています。走っていて苦しくない人は一人もいません。途中で歩いたり、休んだりしたくなかったことは、誰もがあるでしょう。しかし、走り続けなければゴールにはたどり着けません。周りはライバルでもあるし、仲間でもあります。そして、ただゴールするだけでなく、順位や時間との勝負です。やはり入試と似

ていると思います。こういったときにこそ自分の弱さを垣間見ることができます。しかし、そこを乗り越えたときに初めて手にする喜びが真の喜びであると思います。

先週から総合的な学習の時間を使って、「面接」に向けた学習を始めました。面接は高校入試だけでなく、大学や専門学校など進学をする際や就職する際など、人生の節目節目で行われます。みなさんにとって、今回の入試が初めての「面接」かもしれません。

この面接ではみなさんと面接官とは初対面になります。だからこそ、第一印象で好感度をもたれるかが大事になります。多少、面接の質問に対する受け答えがうまくいなくても、この第一印象でカバーできてしまいます。その第一印象を決めるのが、入室の仕方、あいさつ(声の大きさ)、礼などの所作になります。これはなかなか一朝一夕に身に付くものではありません。繰り返し練習して、自分の体に覚えさせていかなくてははいけません。学校での面接練習は所作から行っていますが、家でも所作の練習をしてください。意外と受験勉強の気分転換にもなります。おそらく礼の仕方一つとっても、最初はまっすぐに礼ができないと思います。私も遠い昔ですが、長い定規を背中に入れて練習したことを思い出しました。自分の立ち姿勢、座る姿勢がいかに曲がっているかもわかります。

さて、今回もみなさんに考えてもらいたいことがあります。

高校入試の機会は公立、私立ともに1回ずつあります。知っての通り、この入試の選抜資料として、調査書は大きなウェイトを占めます。その中でも評定点とよばれる各教科の評定が重要視されています。その評定点については、三者面談でみなさんに一人一人伝えています。

公立高校の共通枠で考えたときには、評定点が第1段階(共通枠定員の75%)に入っている方がもちろん合格する可能性は高くなります。ところで評定点は合計点で言うと9~45点の中で収まっています。全体ではかなりの幅があるとは感じますが、実際の進路希望校別に見てみると、ほとんど評定点では差がありません。特に評定点が高いと言われている進学校ではそれが顕著です。だから、どこで差がつくかといえば、当日の入試での得点と面接(裁量枠による場合は実技試験など)になるでしょう。

もう評定点は決まっています。あとは当日の入試での得点と面接次第になります。そういうことも考えると、これからの受験勉強と面接練習が重要になっていきます。

